

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん



1・2歳児6月主題「わくわくする」
月のねがい
◎さんびかや祈りのことばに心を合わせる
◎友だちや身近な物事に心を動かす
◎自然にふれて興味をもつ



3・4・5歳児6月主題「不思議」
月のねがい
◎神さまが創られた自然の不思議さに目をとめ、関心をもつ
◎いろいろな物を使って遊び、興味や関心が広がる
◎生活の中で、予想したり試したりする

今月の聖句「みよ、私は新しいことをする。今、もうそれがおころうとしている。」

イザヤ43:19
BC7世紀の預言者イザヤはイスラエルの民の滅亡を感知し、警告しました。「新しい事が起こる」とは具体的にはどんなことだったのでしょうか？ BC7世紀に、ユダヤは近隣のバビロニア帝国に占領され、捕囚の身となりました。BC4世紀に、ペルシャ帝国に変わった時、クロス王は自国へ帰国すること認めました。しかし、ローマ帝国になってAD70年、ユダヤ人は徹底的に滅ぼされ、約1900年間、国を持たない放浪の民となったことは歴史家ならずとも誰もが知っているところです。さて、私たちが寄留している宇宙船地球号は永遠不滅の星ではありません。私たちが知っているだけでも、熊本で、東北で震災と津波の災害があったことは記憶に新しい事です。天災や戦争は絶えず起きてきました。いつの日か、この地球は、必ず跡かたもなく殲滅します。そのとき、生き延びる人は1人もいなくなるでしょう。私たちは、緊張をもってこの全滅から救われる方法を確立して置かなければなりません。では、どうしたらこの破滅から救われるのでしょうか。方法は無いわけではありません。天地宇宙を創造され、支配しておられる愛の神を信じ頼ることによって滅亡から救われ、肉体は霊体に変えられ、飲食や、金銭の要らない、病も痛みも無い、「神の国」へ移される事で、救いは完成します。 註:BC = 紀元前 AD = 起源後、地球の壊滅と救いはヨハネによる黙示録をまとめました。 前理事長 池田公榮



6月の行事予定

3日(土)	家族の日参観(3才以上)
9日(金)	歯科検診(全園児)
13日(火)	給食試食会(あい組)
15日(木)	給食試食会(のぞみ組)
21日(水)	海遊び・弁当日
29日(木)	誕生会(6・7・8月生まれ)



7月の行事予定

5日(水)	七夕訪問(日程未定)
〃	プール遊び(市営プール)
〃	弁当日
15・16日	お泊り保育(年長児)
19日(水)	一学期終園日(1号午前保育)



お手玉・わらべうたあそび

5月から「お手玉の会」との交流、「わらべうたあそび」が始まっています。地域で活動されている方々に遊びに来ていただいて交わりを深める中で、子どもたちもあそびの幅が広がり、楽しませていただいているところです。

ひかり組で実施したわらべうたあそびでは、「ほたる」の歌に合わせてゲームあそびをしたり、クマさんの話に合わせてお散歩ごっこを楽しみました。やさしいたに合わせ、想像を膨らませて散歩ごっこを楽しんでいる子どもたちの姿はとても可愛いものでした。

お手玉あそびでは、頭の上にお手玉をのせて背中と首を伸ばしたり、両足を踏ん張って輪ゴムのついたお手玉をに操作したりしました。子どもたちの姿は、真剣で一生懸命そのものです。お手玉の会の方からは、集中して取り組む子どもたちの姿を見て、指導する方もつい力がいったということでした。また、子どもたちが歌う童謡がかわいらしく、子どもたちのパワーをもらって楽しかったというお言葉をいただきました。お互いに楽しい時間を過ごすことができ感謝でした。

今年度も、地域の方々とながりを大切にしながら、園生活を楽しみ、あそびを広げていきたいと思ひます。 園長



梅雨来たりなば夏はすぐそこに

今年の春は、柑橘系の果実が大豊作だったようですが、姉妹園に出現するホタルもかなり賑やかでした。例年より羽化が遅かったのか、この時期まで見られるのは驚きでした。先日の親子遠足では、たくさんご参加下さりありがとうございました。役員をお引き受け下さった方々に心より感謝申し上げます。いよいよ梅雨時。子どもたちにとっては、うっとうしい雨もまた楽しからずやであります。晴れた日も雨の日も、園内で繰り広げられる子どもたちの営みは、神様が子どもたちの内側に注がれた生命のエネルギーで溢れています。

梅雨と言えどももちろん雨。雨と言えれば水ですね。植物を形成する細胞の化学反応は水を媒介として行われますが、成長に必要なあらゆる物質も、また水によって生物体の内部に運ばれます。木々に水を供給し続けるのは「根」です。雨量が多く強風の少ない地に育つ木は、そびえ立つような大木でも、たまに強風が吹くと簡単に倒れてしまうようですが、地下水が深いところにあるような場所では、根も長く伸びていき、幹をしつかりと支えられるのです。苦しみや試練に出会った時、それを乗り越えらるる力を得るのは、安易な水の補給ではなく、深く根を伸ばすための心の葛藤や克己心ではないでしょうか。

一般に「幼児教育」という言葉からは、「教育・指導によって何かができるようにする」というイメージがあるような気がしますが。保育者が主導して多くの課題を与え、計画された何かによって力が付いていくというものです。確かに以前はこの様な「潜在能力開発的な見せる」保育も昨今見聞きします。早い発達や目に見える達成度に期待を寄せる親の願いも理解できます。子どもを、自分の思いを持つ一つの主体として捉えるならば、自らの意志であそびを選び、創り出し、遊び込む中で得る自信や意欲というものが、真に大切にしたいものです。「一オンスの経験は一トンの理論にまさる」という言葉があります。「先生、見て！来て！」と、驚きや気づきを認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

さて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きを感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきています。日々の経験から得る「わくわく」が興味・関心を広げていきます。湿度が上がると、疲れも出てきて体調を崩しやすい時期でもあります。また、気候的には様々な感染症に罹りやすくなります。どうぞ早寝・早起き・朝ごはんなどで元気に登園できますようご協力お願いいたします。

学園長

大豆田啓友先生の「子育ての悩み解決 100のメッセージ」より「子どもの発達について」

お出掛け前にトイレに誘っても「イヤ」、公園から帰るときも「イヤ」とぐずってばかり。(2才5ヶ月・女児)

何に対しても「いや、いや」と反抗するのは2歳代の大きな特徴です。「反抗期」とも「わからんちんの2才児(魔の2歳児)」とも言われます。しかしそれは、断固として反抗しているわけではありません。ちゃんと子どもなりの理由があり、これこそ心の成長なのです。

2歳くらいになると、「自分はこうして遊びたい」というイメージや見通しがつくようになります。ところが、そこに大人から突然「トイレに行きなさい」「もうあそびは終わり、おうちに帰りましょう」等と言われると、イメージどおりにならず、受け入れるのが難しかったりして「嫌だ」と言うのです。これは自我が育ってきたことと大きく関係しています。

こうした時期は、**子どものプライドを尊重してあげることが、多くの激しい衝突をまねかない秘訣**だと言えます。一度おへそを曲げられると、手に負えなくなることもあるので、大人が一步引いて「まあ仕方ないか」と聞き直れるるとよいでしょう。子どもも、一度ちゃんと思いを受け止めてもらえると、納得してうまく切り抜かれるようになります。

☆怒るよりも、子どもを認めてあげる

避けたいのは、子どもの態度に耐えかねて、お母さんが正面からぶつかってしまうこと。怒っても逆効果なのです。それよりも「頑張っているね」と認めてあげると、子どもも早く切り上げることができます。

トイレに行きたがらないなら、「〇〇したら、次に△△できるよ」と見通しを付けてあげてはいかがでしょうか。あそびを切り上げるときには「さあ帰ろう」ではなく、あと1回滑り台を滑ったら帰ろうね」など、帰る目安を伝えて、子ども自身が踏ん切りを付けるきっかけを与えてあげるとよいかもしれません。

遊びを切り上げるときは、「さあ、帰ろう」ではなく、「あと1回すべりだいを滑ったら帰ろうね」など、帰る目安を伝えて、子ども自身が踏ん切りを付けるきっかけを与えてあげるとよいかもしれません。

怒らない方がよいとは言え、すくなくならずの親子も自然にぶつかる者です。遊び半分、苦勞半分という時期でしょう。こんな時に頼りになるもの苦勞を分かち合えるママ友など。同じような育児の悩みを語り合い、ストレスを解消していきましょう。

ときには子どもとぶつかってもOK。でもエスカレーターすると、後に尾を引くので、大人が一步譲って、深みにはまらない工夫を。